



アストンマーティン Vantage GT3 が プチ・ル・マンで再び優勝、Car Blanche は初勝利

- Car Blanche、モジュール・プチ・ル・マンにて IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権 GTD Pro 初優勝を達成
- アストンマーティン、プチ・ル・マン初優勝から 20 年目の今年、第 29 回を迎えたロード・アトランタ開催の名門 10 時間耐久レースにて 3 度目のクラス優勝を挙げる
- ミシュラン・レースウェイ・ロード・アトランタで開催された波乱の 10 時間耐久レースでクラス優勝を勝ち取ったのは、ワークスドライバーのヴァランタン・アス・クロー、マルコ・ソーレンセン、マティア・ドルディ
- アストンマーティン、Vantage で 2026 年 IMSA GTD マニュファクチャラーズランキング準チャンピオンに
- The Heart of Racing とドゥドゥ・バリチェロは、ブラジル出身バリチェロの好調なデビューシーズンを終えたところでどちらも IMSA GTD ランキング 3 位に
- Magnus Racing は、ジョン・ポッター、スペンサー・パンペリー、マリオ・ファーンバッハーで再び挑んだ GTD クラスでトップ 5 フィニッシュ



2026 年 10 月 4 日、ロード・アトランタ（米国）：

アストンマーティンで最も成功を収めているレーシングカーVantage GT3 が、10 月 3 日に米国ジョージア州のロード・アトランタで開催された 2026 年 IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権（IMSA）最終戦のモチュール・プチ・ル・マンにて、YRB Racing が運営する Car Blanche によって GTD Pro クラス優勝の快挙を成し遂げました。

ニュージャージーを本拠とする Car Blanche は、IMSA 出場 6 戦目、そしてプロドライバーのみで競う激戦の GTD Pro クラス 3 戦目にして初勝利を獲得しました。これをもって、アストンマーティンのワークスドライバーであるマティア・ドルディ（イタリア）、マルコ・ソーレンセン（デンマーク）、ヴァランタン・アス・クロー（フランス）のオールスターが並ぶ YRB Racing の新チーム Car Blanche は、アストンマーティンのプチ・ル・マンにおける 3 度目のクラス優勝を勝ち取り、チームの見事な IMSA 参戦一年目を締めくくりました。Car Blanche は、2027 年はフルシーズンの GTD Pro クラス参戦を予定しています。

6 月の IMSA 参戦開始以来チームとともに戦ってきたアス・クローは、次のように述べています。「非常に短い期間で Car Blanche を先頭に持ってくるために舞台裏で重ねてきた努力と懸命な取り組みが見事に報われました。まだ学びの途上にはありますが、私たちは最初から速く、レースのたびごとにチームで経験や教訓を積み上げてきました。マティアとマルコとともに、プチ・ル・マンには強力なラインアップで臨むことができ、チームも優れた力を発揮し続けていました。優勝できて、全員とてもうれしく思っています。これほど大きなレースでこれほど早い時期に優勝できたのは信じられないようなことです、最高です！」

レースを通して高速ペースで安定した勢いを見せた Car Blanche が劇的な勝利を決めたのは、最終盤に入ってからでした。卓越した戦略的判断に高速のマシンという組み合わせが功を奏し、68 号車 Vantage GT3 はレースのほとんどをトップ 6 内で走行していましたが、日没後ドルディがスパートをかけ、Vantage の順位を上げていきました。

予選で GTD Pro の 2 位と、Car Blanche にとって IMSA における最高のスターティングポジションを獲得したドルディは残り 40 分で 3 番手に浮上し、その 10 分後には一気に 2 台を追い抜いてクラスの先頭に立ちました。続いて巧みな防衛を展開し、レース終了まで先頭を守り抜きました。

ドルディは 2024 年にアストンマーティン・レーシングのパートナーチームの Comtoyout Racing でスパ・フランコルシャン 24 時間レース優勝を勝ち取っています。その実績にプチ・ル・マンのトロフィを加え、ドルディは次のように述べています。「最後のスティントでマシンは本当に良い状態でした。かなり強気の攻めができたので、私も優勝を狙って戦うことができました。今週末、Car Blanche チームはこの上なく一緒に仕事をしやすくしてくれて、マシ

ンに乗るだけですぐに戦う態勢に入れました。そこにかかなりのポテンシャルがあると思います」

ソーレンセンも、3度の FIA 世界耐久選手権 GT タイトル獲得、ル・マン 24 時間優勝、ロレックス・デイトナ 24 時間 GTD クラス優勝、スパ・フランコルシャン 24 時間レース総合優勝を含むキャリア実績に今回のプチ・ル・マン優勝を加え、次のように述べました。「**Car Blanche** と過ごした短い間にも常に進歩があり、非常に高いポテンシャルを持っていることは見えていました。この週末はずっと好調でした。これほどまでに感動的なチームの勝利に加わることができてうれしく思います。2027 年に何が達成できるか、とても楽しみです」

2026 年の IMSA で **Vantage** が優勝したのは今回が初めてでしたが、**Vantage GT3** の GTD Pro クラス優勝は 6 度目、アストンマーティンにとっては 15 度目の IMSA GT クラス優勝でした。アストンマーティンのプチ・ル・マンにおけるクラス優勝も今回で 3 度目になります。2006 年にはトーマス・エンゲ（チェコ）とダレン・ターナー（英国）が駆る V12 搭載の DBR9 で GT1 クラス優勝、2021 年には **The Heart of Racing (THOR)** のロマン・デ・アンジェリス（カナダ）、ロス・ガン（英国）、イアン・ジェームズ（英国）が GTD クラス優勝を果たしています。

今回のレースは、**THOR** にとってはほろ苦い結果となりました。ドウドウ・バリチェロ（ブラジル）、トム・ギャンブル（英国）、ザック・ロビション（カナダ）の 27 号車 **Vantage** がスタート前に電気系統の問題に見舞われ GTD のタイトル争いから脱落する一方、なんとか復活してラップ数をこなしたことでバリチェロがドライバーズランキング 3 位を獲得しました。**THOR** もチームランキングで 3 位に入り、アストンマーティンは GTD マニュファクチャラーズランキング準優勝でシーズンを終えました。**THOR** がシーズンを通して高い競争力を発揮してきたことは、IMSA ミシュラン・エンデュランス・カップ（IMEC）で 3 位に入ったことにも示されています。IMEC は IMSA の長距離レースから構成され、各レースにおける特定地点でのポジションに基づいてポイントが与えられます。**THOR** の首位との差はわずか 2 ポイントでした。アストンマーティンも、**THOR**、**Car Blanche**、**Magnus Racing** の 3 チームの活躍のおかげで、IMEC GTD マニュファクチャラーズランキング 2 位に入りました。

6 月のワトキンス・グレン 6 時間レース以来の出場となった **Magnus Racing** は、GTD クラスにおいて好調にシーズンを終え、ジョン・ポッター（米国）とスペンサー・パンペリー（米国）、2 度シリーズチャンピオンに輝いているマリオ・ファーンバッハー（ドイツ）のラインアップが、5 位でフィニッシュしました。

この結果をもって、**Vantage** の輝かしい週末が終わりを迎えました。**Vantage** は、ウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンのロードカー **Vantage** と同じメカニカル・アーキテクチャを採用し、アストンマーティンが誇る信頼性の高

い接合アルミシャシーをベースに、圧倒的なパフォーマンスを発揮する **4.0 リッターV8 ツインターボエンジン**を搭載しています。**Car Blanche** の優勝の約 **24 時間前**には、アストンマーティン・レーシングのパートナーチームである **Circle H Racing** も、サポートレースの **IMSA ミシュラン・パイロット・チャレンジ最終戦**でマーティン・サルハニアン（アルメニア）とトーマス・メリル（米国）が初勝利を挙げました。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者アダム・カーターは次のように述べています。「**Car Blanche** は **6 月のワトキンス・グレンのデビュー戦**で強烈な印象を残しましたが、今回の優勝は彼らが北米で最も重要な **GT レースの舞台**においてどれほど短期間で有力な存在となったかを改めて明確に示しています。また、**GT レースのあらゆるレベルのチーム**に対し、**Vantage** が高い競争力を持ったパッケージとしていかに多様な能力を発揮できるかをも示しています。今週末のロード・アトランタでは、すべてのクラスにおいて終始高い競争力を発揮してきましたが、その成功の基にあるのはアストンマーティンがトップレベルで競うことのできるチームと築いてきた強固な関係です。それがあから膨大なポテンシャルを引き出すことができるのです。デビュー戦で表彰台を獲得し、わずか **6 度目**の出場で初優勝を挙げ、しかもそれを **IMSA** の中でも最大級のレースにおいて成し遂げたのは、並外れた功績です。**2027 年の GTD Pro フルシーズン出場**で達成できることを楽しみにしています。ここで **THOR** にもお祝いを述べなければなりません。彼らは今シーズンも **IMSA** で素晴らしい戦いぶりを見せ、アストンマーティンが **GTD マニファクチャラーズランキング準優勝**でシーズンを終えることができた大きな理由でもあります」



アストンマーティン Valkyrie、モチュール・プチ・ル・マンにて 2026 年の最高成績に並ぶ順位で激戦の IMSA シーズンを終える

- アストンマーティンのハイパーカーValkyrie、興奮のシーズンクライマックスを迎えたモチュール・プチ・ル・マンにて 2026 年 IMSA における最高成績に並ぶ順位を獲得
- アストンマーティン THOR チームのロス・ガン、ロマン・デ・アンジェリス、アレックス・リベラス、ミシュラン・レースウェイ・ロード・アトランタにて終始表彰台争いに絡む走りで 5 位フィニッシュ
- Valkyrie は 2026 年、世界最高峰スポーツカーシリーズである IMSA と FIA 世界耐久選手権の両方に参戦する唯一のハイパーカー

2026 年 10 月 4 日、ロード・アトランタ（米国）：

圧倒的な魅力を放つアストンマーティンのハイパーカーValkyrie が、10 月 3 日に米国ジョージア州のミシュラン・レースウェイ・ロード・アトランタで開催された激戦のモチュール・プチ・ル・マンにて総合 5 位を勝ち取る力強い走りで IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権（IMSA）シーズンの終わりを迎えました。

ワークスドライバーのロス・ガン（英国）とロマン・デ・アンジェリス（カナダ）に、今回は FIA 世界耐久選手権常連のアレックス・リベラス（スペイン）が加わり、10 時間にわたるレースを通して力強い走りを展開しました。最後の 3 時間の重要な局面ではいくつか先頭を率いる場面もありましたが、離れた場所で発生したインシデントによってフルコースイエロー（FCY）がたびたび発動されたことでアドバンテージが活用できず、残り 1 時間が始まった時点では戦略的にライバルたちと再び並んでいました。

元 GTD シリーズチャンピオンのデ・アンジェリスは 3 番手まで浮上しましたが、他車とのインシデントを受けてレース終盤にドライブスルーペナルティを科せられ、アストンマーティン THOR チームは 5 位に順位を下げる結果となりました。とはいえ、5 位は夏にロード・アメリカで記録した 2026 年の最高成績に並びます。また、Valkyrie は昨年まさにこのサーキットで 2 位と、初の総合表彰台獲得を果たしています。

アストンマーティン初の「ル・マン・ハイパーカー」（LMH）となる Valkyrie は、IMSA 最上位の GTP クラスで唯一、公道仕様のハイパーカーをベースにしています。Valkyrie は IMSA に

出場する最初の LMH であると同時に、IMSA と FIA 世界耐久選手権（WEC）の両シリーズに参戦する唯一の LMH でもあります。

レース仕様の Valkyrie は、アストンマーティンと THOR により市販車をベースに開発され、レース用に最適化したカーボンファイバー製のシャシーに改良を施した 6.5 リッターV12 エンジンを搭載しています。標準仕様のエンジンは最高回転数 11,000rpm、最大出力は 1,000PS を超えますが、ハイパーカーのレギュレーションに従い、出力は厳密に 500kW（680PS）に抑えられます。

アダム・カーター、アストンマーティン耐久モータースポーツ責任者：「Valkyrie とアストンマーティン THOR チームは、プチ・ル・マンで昨年同様の素晴らしい活躍を見せてくれました。過去 2 シーズンにわたって Valkyrie を理解するために努力してきたことで、2026 年を通して活用できる、より安定したプラットフォームを整えることができましたが、私たちに比べ経験豊富なライバルたちを相手に常に渡り合っていくには、まだまだやるべきことがたくさんあります。とはいうものの、ロマン、ロス、アレックスはロード・アトランタで幾度か先頭を率い、表彰台圏内で戦っていました。運は味方してくれませんでした。昨年の結果を再現できるだけのポテンシャルはありました。これは、成し遂げた進歩とチームの競争力および戦略力を大いに示しています。力強い手応えがあった IMSA 参戦の幕は下りましたが、さらに好成績を目指して努力を続け、2027 年に何ができるかを探る中で、今後は FIA WEC の残りのレースに集中していきます」

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-WFvJS3qiRfRqCLEp>

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって 1913 年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX に加え、同社初のミッドエンジン・ハイブリッド・カーである Valhalla など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green. サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは「ブレンドドライブレインアプローチ」による内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーと SUV のラインナップを持つというプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で 50 以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されてお

り、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。

ラグオンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp